

低学年
児童期の学習

～保護者のみなさまへ～

これまで、小学校の低学年期までに培っておきたい能力として、「読む力」と「算数の感覚的素養」を取り上げてご説明しました。今回はその続編で、「基礎計算力」を取り上げてみようと思います。



中学受験を視野に入れておられるご家庭のお子さんは、基礎計算力の習得で難渋することはほとんどないと思います。このコラムをお読みの保護者も、わが子がこの方面で躓くとは思っておられないことでしょう。すでに小学校入学前から結構取り組んでいるお子さんが多いでしょうから、そう思われるのも無理はありません。

しかしながら、弊社の高学年部門で中学受験対策をしているお子さんのなかに、**意外と計算処理が不正確で遅いケース**が見られます。極端な例をあげると、初歩的計算処理が苦手なために指を折って数えるお子さんがいるという情報を耳にし、「まさか!？」と驚いたことがあります。こういうお子さんが算数で高成績をあげるのはまず不可能であり、高学年になってこのような躓きを抱えていると、あらゆる算数単元で難渋することは想像に難くありません。また、機械的に計算処理をすることはできても、そこに存在する数の意味がわかっていないと、文章題などが出されるとお手上げになる子どももいます。



一つ例をあげてみましょう。以下の引用文は、ある教育学者の著作にあったものです。小数の計算でのつまずきで娘さんが苦勞されたエピソードが紹介されていました。これも、小学校低学年のころからの**基礎計算技能の理解と習熟が不十分**だったことに起因します。



小数の割り算ができないというのは、計算での全般的理解の不足を象徴しています。というのは、小数の割り算のなかに小学校でならう計算操作のほぼ全体がくみこまれているからです。

5年生の終わりから6年生に入って、このつまずきをとりもどすのに長女は大へん苦勞しました。3, 4年生の教科書のおさらいからはじめて、基本的な事項をもういちど理解しなおし、練習します。つらい毎日が続きました。私も妻も仕事で忙しかったので、いっしょに住んでいた母がそれを手伝ってくれました。ほぼ1年これが続いて、ようやく人並みに算数の学力をとり戻せたのは6年生も終わりになったころでした。



上記のような状態にあった娘さんは、おそらく中学受験どころではなかったことでしょう。基本的な計算操作の意味を理解し、操作の手順を習得するプロセスに問題を抱えたまま上の学年に進学すると、新たに学ぶ単元の勉強がスムーズに進まないうえに、取り戻すべき事柄を学び直すことが必要となるため、二重に苦勞をすることになります。



いっばう、これらのことをしっかり身につけておけば、算数課題を解くプロセスで必要となる数処理で手間取ることがなく、快適に算数的な思考を押し進めていくことができます。さらに大人になってから仕事や生活で出会う無数と言えるほどの計算処理場面で難渋することがありません。基礎計算力は、算数や数学が苦手かどうかとは違う次元の必須能力であり、児童期までにしっかりと取り組んでさえいれば、その恩恵に一生浴することができるでしょう。まさに一生の宝物ではないでしょうか。



お子さんが小学校の1～3年生であれば、数の計算処理が正確に素早くできるかどうか、改めて確かめてみてください。素材は学校で配られるドリルなどで構いません。つまりが少しでも見られるようであれば、今のうちにしっかりと対処しておきたいですね。また、3年生ぐらいのお子さんであれば、2行程度の文章題のもつ意味を理解し、簡単な計算式を自分でつくれるかどうかチェックしてみましょう。

かけ算九九は、
上がり九九、下がり九九、
途中九九が全て自在に
言えたら合格！

いんいちがいち、いん
にがに、いんさんが...

くくはちじゅういち、
くはしちじゅうに、くし
ちろくじゅううさん...



小学校高学年以上になると、同じような作業を延々と続けるような勉強を面倒がるようになります。しかし、児童期前半までの子どもは、大人（特に親）が励ましほめると、いくらでも繰り返して取り組みます。基礎計算力の習熟が児童期前半までの重要な必須課題であることの意味は、そういうところにもあるのですね。



ただし、一口に計算といっても、それは**技能の習熟**だけを意味するわけではありません。上記でも若干ふれましたが、**計算の意味**を理解していないと、自分で立式して答えることができません。ただ**機械的な計算練習を繰り返すだけでは真の計算力は身につけません**。数には順序や量、重さ、距離など、いろいろな要素があります。一つひとつの課題



で提示されていることを現実場面に照らし、自分で式をたてる勉強も大切にしていきたいですね。



家庭学習研究社の低学年部門では、会員の子どもたちの全てに確たる基礎計算力を身につけていただきたいと考えています。オリジナル講座のジュニアスクールでは、「**計算練習帳**」という副教材を制作し提供しています。



こちらには、上述のような計算場面の意味を理解して答える力が養えるような課題も含まれています。保護者におかれては、「たかが計算」と思わずに、お子さんの取り組みをと

きどきは実際に見守り、うまくやれているようなら大いにほめ称え、喜んであげていただ

きたいですね（玉井式の会員のかたは「できたかな？プリント」に付属の「まい日のけ

いさんれんしゅう」ページへの取り組みが有効です）。このような経験を通して、計算力を養っておけば、高学年に進級してからの算数学習で困らないだけでなく、先々の人生の様々な場面で役立ってくれることでしょう。

